

平成27年度

石巻市教育委員会の活動状況に関する

点検及び評価報告書

平成27年10月

石巻市教育委員会

平成27年度 石巻市教育委員会の活動状況に関する 点検及び評価の実施について

1 事業の概要及び目的

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条において、「教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。」とあり、実施に当たっては、「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るもの」と規定されております。

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価報告書を公表することにより、市民に対する教育行政の説明責任を果たすとともに、適正かつ効率的な教育行政の運営に資することを目的とします。

2 根拠法令

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

○石巻市教育委員会の活動状況に関する点検及び評価実施要綱（平成20年教育委員会訓令第7号）

3 平成27年度 点検評価実施内容について

(1) 点検・評価の対象事業について

平成26年度に実施した「石巻市総合計画実施計画」及び「石巻市震災復興基本計画実施計画」への掲載事業のうち、将来に渡り長期的に継続していくべき事業、子ども安全・安心のため重点的に取り組むべき事業として、学校教育分野で11事業、社会教育・保健体育分野で6事業の合計17事業を選定しました。

(2) 点検・評価の方法について

選定した事業について、事業調査票を作成し、平成26年度における取組実績及び成果の自己点検・評価を行い、この結果を基に学識経験者からの意見聴取を実施し、本報告書を取りまとめました。

本報告書については、市議会へ報告するとともに市ホームページに掲載し、公表いたします。

平成27年度 石巻市教育委員会の活動状況に関する点検及び評価

対象事業一覧

番号	所属	事業名
1	学校教育課	適応指導教室運営事業
2	学校教育課	特別支援教育支援員配置事業
3	学校教育課	石巻・子どもの未来づくり事業
4	学校教育課	いじめ・生徒指導問題対策事業
5	学校教育課	国際理解教育推進事業
6	学校教育課	桜坂高等学校の魅力ある学校づくり事業
7	学校教育課	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー配置事業 7-1 スクールカウンセラー配置事業 7-2 スクールソーシャルワーカー配置事業 7-3 ハイスクールカウンセラー配置事業
8	学校教育課	心のケア充実事業①
9	学校安全推進課	防災教育充実事業
10	学校管理課	学校図書整備事業 10-1 学校図書整備事業(小学校) 10-2 学校図書整備事業(中学校)
11	学校施設整備室	学校施設太陽光発電設備整備事業
12	生涯学習課	コラボスクール推進委託事業
13	生涯学習課	放課後子ども教室推進事業
14	生涯学習課	青少年文化芸術鑑賞事業
15	生涯学習課	文化芸術事業
16	生涯学習課	家庭教育支援事業
17	体育振興課	スポーツ振興事業

**平成27年度 石巻市教育委員会の活動状況に関する
点検及び評価に係る意見聴取会**

- 1 **開催日時** 平成27年7月24日（金） 午後1時30分開会
- 2 **開催場所** 本庁舎6階 議会第1・2委員会室
- 3 **学識経験者** 2名

氏 名	役 職 等
菅 井 吉 秀 氏	元住吉中学校校長
佐 藤 祐 樹 氏	河北文化協会会長

4 **意見聴取会の進め方**

番号	内 容
1	・意見聴取会手順の確認 進行手順について、事務局より説明
2	・事業内容の説明 「平成27年度（平成26年度事業対象）教育委員会の活動状況に関する点検及び評価資料」の事業調査票 ①目的及び事業内容 ②取組実績 ③成果 ④成果に係る評価 の順に担当課から説明
3	・質疑応答 学識経験者から、取組実績等について質問を受け、担当課より回答
4	・学識経験者からの意見を聴取する
※ 1事業ごとに番号2～4を繰り返し行う	
5	・学識経験者からの全体を通しての総括的意見を聴取する
6	・学識経験者の意見の反映 意見を付した報告書をまとめ、教育委員会において審議

5 学識経験者からの意見

○ 総括的意見について

菅井吉秀氏

多くの事業の中で、形骸化していると思われる事業はないか。その場合には、精選または思い切って廃止という見直しの考えを持つことも必要と思います。

各種事業の推進においては、企画運営について様々な創意工夫がなされていることを知ることができました。その成果も多く見受けられ、心より敬意と感謝を申し上げます。

教育委員会の事業には学校教育と社会教育があり、とりわけ学校教育現場とのかかわりが深いわけですが、その事業の推進に当たっては学校の負担軽減に配慮しながら、その効果を最大限に確保する点について、これまで以上に意を用いていただきたいと思います。すべて予算が伴うことなので、その見直しや検討課題を常に明確に押さえていくことが大事ではないかと思います。

佐藤祐樹氏

事業全般に意欲的で、細部にわたり心配りがなされ、効果的な指導や活動が行われていると感じました。今後ともこの思いやりの気持ちを忘れずに、さらに気を緩めることなく、事業を継続推進していただきたいと思います。

それぞれの事業が大変立派に行われていることに対し、敬意を表するものです。

○ 事業ごとの意見について

点検及び評価の対象事業ごとに記載

事業番号		1	事業名		適応指導教室運営事業																			
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()																	
	1 項	教育総務費		第1節	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する		()																	
	3 目	教育指導奨励費		(2)	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ		()																	
目的及び事業内容		<p>不登校児童生徒個々の実態等に応じた生徒指導、学習指導、適応指導を行い、自立を促しながら学校への復帰を図る。</p> <p>1 通所児童生徒との教育相談及び学校、保護者との連携</p> <p>2 児童生徒の実態等に応じた学習指導</p> <p>3 望ましい人間関係、仲間づくりを目的とした体験活動の充実</p>																						
取組実績		<p>1 通所児童生徒との教育相談及び学校、保護者との連携 通所児童生徒や保護者との定期的教育相談や懇談会を行ったほか、機会を捉えての相談等も行って悩み等に受容的に対応した。</p> <p>2 児童生徒の実態等に応じた学習指導 (1) 通所児童生徒一人ひとりの実態や学年を踏まえ、個に応じた指導・支援を行った。 (2) 在籍校との連携を深め、学級担任との連絡を密に行ったほか、適応指導教室での定期考査受験や学校で使用しているプリントでの学習などにより、帰属感の育成が図られた。</p> <p>3 望ましい人間関係、仲間づくりを目的とした体験活動の充実 絵手紙教室、英会話教室、書道教室、調理実習、スポーツ教室、清掃活動等の体験活動を通して、仲間とともに活動する楽しさや成就感の醸成が図られた。</p>																						
成果		<p>教育相談活動や学習活動、体験活動の充実、保護者や学校との連携強化により、児童生徒の再登校への意欲を高め、一定の成果が図られた。 しかし、適応指導教室通所児童生徒の状況は個々によって多様であり、再登校を始めても、戻って来てしまうこともあり、復帰への道のりは容易ではない。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 40%;">主な指標項目</th> <th style="width: 15%;">H24</th> <th style="width: 15%;">H25</th> <th style="width: 15%;">H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>不登校児童生徒の保護者、担任等との相談件数</td> <td>93件</td> <td>108件</td> <td>103件</td> </tr> <tr> <td>通所児童生徒の再登校率</td> <td>25.0%</td> <td>20.0%</td> <td>42.8%</td> </tr> <tr> <td>通所児童生徒の部分登校率 (再登校者を含む)</td> <td>62.5%</td> <td>40.0%</td> <td>71.4%</td> </tr> </tbody> </table>							主な指標項目	H24	H25	H26	不登校児童生徒の保護者、担任等との相談件数	93件	108件	103件	通所児童生徒の再登校率	25.0%	20.0%	42.8%	通所児童生徒の部分登校率 (再登校者を含む)	62.5%	40.0%	71.4%
主な指標項目	H24	H25	H26																					
不登校児童生徒の保護者、担任等との相談件数	93件	108件	103件																					
通所児童生徒の再登校率	25.0%	20.0%	42.8%																					
通所児童生徒の部分登校率 (再登校者を含む)	62.5%	40.0%	71.4%																					
成果に係る評価		<p>平成26年度の不登校児童生徒は小・中合わせて158人であり、昨年度と比較すると減少しているが、相変わらず多い状況が続いている。各々の学校で改善の努力はしているが、指導が困難な事例も多く、不登校児童生徒の大幅な減少には至っていないことから、専門的な対策チームを構成して本人や家庭に積極的に働きかける必要がある。</p> <p>適応指導教室を基盤とし、少年センター相談員、不登校対応相談員、スクールソーシャルワーカー、青少年育成員、校長会担当者、民生委員・児童委員協議会委員らをメンバーとする市立小・中学校不登校児童生徒対応協議会が中心となって、その対策に当たっていくとともに、未然防止策及び対応策の確立を目指していくことが必要である。</p>																						
学識経験者からの意見		<p>【菅井吉秀 氏】 幼児期から義務教育を終えるまでの期間を一区切りで考えた場合、学年や年齢に応じた保護者の子どもへのかかわり方が最も重要であると考えます。事が起きてからの対応も大事ではあるが、未然防止策及び対応策の確立について、大いに期待したいと思います。</p> <p>【佐藤祐樹 氏】 一律に対応できるものではなく、個々の生活環境や家庭、本人の意欲が異なる中ででの指導・支援は大変なことだと感じます。今後とも手を緩めることなく、継続して指導や案内を行っていただきたいと思ひます。</p>																						
予算の執行状況		(単位：円)																						
		予算額	決算額	決算額の財源内訳																				
				国(県)支出金	地方債	その他	一般財源																	
4,990,000	4,567,537			33,000	4,534,537																			

事業番号		2	事業名		特別支援教育支援員配置事業			
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()	
	1 項	教育総務費		第1節	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する		()	
	3 目	教育指導奨励費		(2)	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ		()	
目的及び事業内容		<p>通常の学級に在籍している発達障害がある児童生徒の日常生活支援及び学習指導補助を行うため、学校に支援員を配置する。</p> <p>1 小中学校への支援員の配置 2 当該児童生徒への支援の工夫</p>						
取組実績		<p>1 支援員の配置状況 市内小・中学校 31校に配置 石巻小、住吉小、門脇小、湊小、釜小、山下小、蛇田小、渡波小、稲井小、向陽小、貞山小、開北小、万石浦小、大街道小、中里小、鹿妻小、飯野川第一小、大谷地小、広瀬小、須江小、北村小、前谷地小、和瀬小、鹿又小、桃生小、中津山第一小、中津山第二小、北上小、大原小、蛇田中、河南西中</p> <p>2 通常の学級における当該児童生徒への支援 通常の学級に在籍する、知的障害、LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性障害）、高機能自閉症、選択的緘黙等の子どもたちへの学習・生活支援をするなどし、担任教員の指導補助を行った。各学校では、学級や個人への支援のあり方について研修するなどして、支援員の活用を工夫した。</p> <p>3 特別支援教育支援員研修会の実施 支援員を対象に、宮城県立石巻支援学校 校長 相澤一夫氏を講師として招聘し、「特別支援教育支援員の役割と具体的な支援」の演題で研修会を開催した。また、分科会に分かれて、日常支援の様子等について情報交換をした。</p>						
成果		<p>特別な支援を必要とする子どもの実態に応じた学習・生活指導についての充実が図られた。また、支援対象児童生徒の保護者や担任等から、「支援が充実したことで子どもが安心して学習にとりくめるようになった。周囲の子どもたちにとっても良い影響をもたらしている。大変感謝している。」という声が多く寄せられている。</p> <p>また、研修会を実施したことで、支援員としてのスキルの向上を図るとともに、各学校に配置された支援員との情報交換をすることができ、支援員にとっては有意義なものであった。</p>						
成果に係る評価		<p>特別支援教育は、インクルーシブ教育の推進に伴い、これまで以上に、通常の学級における特別な支援の充実が求められている。特別支援教育支援員の存在は、障害がある児童生徒が通常の学級で少しの支援を受けることで、共に学ぶ機会を作ることへ、大きく貢献している。共に学ぶことで、対象児童生徒本人の社会性の向上を図れるだけでなく、周囲の児童生徒にとっても障害の理解、自己理解・他者理解へつながっている。学校や保護者からは、事業拡充を望む声が非常に大きく、今後、支援員の配置人数の拡充が必要である。</p>						
学識経験者からの意見		<p>【菅井吉秀 氏】 この事業の予算は、平成26年度は大幅に上乘せされております。このことは、学校現場や保護者からも感謝されていることと思います。教育効果も相当上がっているのではないかと想像できます。今後とも一層充実した事業になりますようお願いいたします。</p> <p>【佐藤祐樹 氏】 研修会がこのほか有効であるような感じを受けました。まだ予算的にも余裕があるようなので、今後研修会をなるべく増やすような努力をしてみたいかがでしょうか。</p>						
予算の執行状況		(単位：円)						
		予算額	決算額	決算額の財源内訳				
				国(県)支出金	地方債	その他	一般財源	
53,115,000	48,766,759				48,766,759			

事業番号		3	事業名		石巻・子どもの未来づくり事業			
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第 2 章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()	
	1 項	教育総務費		第 1 節	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する		()	
	3 目	教育指導奨励費		(2)	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ		()	
目的及び事業内容		<p>石巻市立小・中学校長会と連携し、児童生徒の学力の定着と向上をとおり、未来を生きる力の育成を図る。</p> <p>1 子どもの未来づくり推進委員会の設置 「教師の指導力の向上」、「児童生徒の学習習慣の形成」、「志を高める取組を小中連携により充実」の具体的方策について検討し、事業を行う。</p> <p>2 小・中学校校長会との連携 支会校長会ごとに本事業の目的達成のための計画を立て実践する。</p> <p>3 子どもの未来づくり推進地区連絡協議会の設置 各地区の取り組み内容について情報交換し、より効果的な方策を検討する。</p>						
取組実績		<p>1 子どもの未来づくり推進委員会の設置取組</p> <p>(1) 学力調査結果の分析等に基づき、学校と家庭との連携や家庭学習習慣形成の在り方等について検討し、中学校区ごとに家庭学習の進め方について、リーフレットを作成し働きかけた。</p> <p>(2) 子どもの未来づくりリフォーラムを2回実施し、児童生徒、保護者、教員がともに話し合い、意識を高めた。</p> <p>(3) 家庭学習・生活習慣リーフレットの内容及び活用状況を検証し、内容を改善していくことを確認した。</p> <p>(4) 子どもの未来づくり推進地区・実践校の取組状況や成果をまとめ、「事業報告書、実践事例集」にまとめ、活用を図った。</p> <p>(5) 志を強くもって生き抜くための具体的な実践として、小中学校が連携して弁論大会や体験活動の交流会等を実施した。</p> <p>2 小・中学校との連携及び子どもの未来づくり推進地区の取組</p> <p>(1) 学力向上のため、学校と家庭との連携や家庭学習習慣形成等の実践研究を実施した。</p> <p>(2) 地区内での情報共有や共同実践について話し合い、講演会や研修会を実施した。</p> <p>(3) 実践成果発表会において、各地区の取組について発表し、情報を共有した。</p>						
成果		<p>1 小学校と中学校が合同で研修会や授業研究会を実施し、小・中連携の推進が図られた。</p> <p>2 事業実施手法等の工夫により、より専門性の高い講師による研修会を実施する地区が増え、研修の充実を図ることができた。</p> <p>3 各推進地区で作成した家庭学習カードの工夫、活用を通して、学校と家庭が連携する必要性について啓発が図られた。</p> <p>4 被災によって連携事業が困難となった学校があったが、それぞれ工夫して校区にとらわれない連携を行った。</p>						
成果に係る評価		<p>各地区の事業報告から推察すると、小・中連携の推進について各地区での取組は一定の成果があると思われる。ただ、家庭学習習慣の形成については、「家庭学習の手引き」や家庭学習カードの有効活用など、家庭との連携についてさらに工夫しながら取り組みを継続していく必要がある。また、教員の指導力向上については、全市的に取組めるよう教育委員会が主体となって実施する研修会等があるとよい。</p>						
学識経験者からの意見		<p>【菅井吉秀 氏】 学校の先生方の創意工夫によって、教育委員会の指導のもと、すばらしい取組をされていると思いました。小中交流で相互理解が一層深まって、教育効果がかなり期待できる事業の一つであると思いました。今後も継続をお願いしたいと思います。</p> <p>【佐藤祐樹 氏】 小中連携は難しいところですが、連携を試みたところ成果が感じられたとのこと。さらに連携を深め、よりよい成果を上げられるように取り組んで、多くの研修会が開催できるよう努力していただきたいと思います。</p>						
(単位：円)								
予算の執行状況		予算額	決算額	決算額の財源内訳				
				国(県)支出金	地方債	その他	一般財源	
		3,603,000	2,582,371				2,582,371	

事業番号		4	事業名		いじめ・生徒指導問題対策事業																							
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()																					
	1 項	教育総務費		第1節	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する		()																					
	3 目	教育指導奨励費		(2)	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ		()																					
目的及び事業内容		<p>いじめや不登校、その他の生徒指導に関する問題に組織的に対応するため、関係機関等との連携を推進するほか、教員や保護者対象の研修を通して「いじめを許さない風土づくり」を進め、いじめの未然防止及び早期解決を図る。</p> <p>1 いじめ問題対策連絡協議会、生徒指導問題対策協議会の実施 2 いじめの防止や生徒指導上の諸問題の解決にかかる研修会の実施 3 「いじめ防止標語・心のメッセージ集」の作成・配布 4 「Stopいじめ！石巻市子どもサミット」の実施</p>																										
取組実績		<p>1 いじめ問題対策連絡協議会、生徒指導問題対策協議会 市内の生徒指導、いじめの諸問題について、各3回の情報交換を行ったほか、有効な連携の在り方について協議した。</p> <p>2 いじめの防止や生徒指導上の諸問題の解決にかかる研修会の実施 (1) 生徒指導上の喫緊の課題であるネットトラブルの問題に対応するため、市内教職員・保護者を対象に講演会を実施した。 (2) いじめ問題の根幹にかかわる人権について、市内教職員・保護者を対象に大学教授を招いた講演会を開催した。</p> <p>3 「いじめ防止標語・心のメッセージ集」の作成・配布 いじめ防止標語（小・中・高）、いじめ防止メッセージ（中・高）を募集し、メッセージ集を作成して各学校や関係機関に配布し、意識啓発に努めた。</p> <p>4 「Stopいじめ！石巻市子どもサミット」は、市内全中学校の代表が参加し、いじめの防止について話し合いを行った。</p> <p>5 いじめの重大事案に対応するため、石巻市いじめ問題対策調査委員会を設置し、委員の委嘱・情報交換等を行った。</p>																										
成果		<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>いじめの件数</th> <th>解消件数</th> <th>解消率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>53件</td> <td>52件</td> <td>98.1%</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>33件</td> <td>31件</td> <td>93.9%</td> </tr> <tr> <td>高校</td> <td>1件</td> <td>1件</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>87件</td> <td>84件</td> <td>96.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※上記は文部科学省実施の平成26年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査による。</p>							区分	いじめの件数	解消件数	解消率	小学校	53件	52件	98.1%	中学校	33件	31件	93.9%	高校	1件	1件	100%	計	87件	84件	96.6%
区分	いじめの件数	解消件数	解消率																									
小学校	53件	52件	98.1%																									
中学校	33件	31件	93.9%																									
高校	1件	1件	100%																									
計	87件	84件	96.6%																									
成果に係る評価		<p>いじめの解消率は90%を超えており、各学校において早期発見、早期解決に向けて取り組んだ成果が表れているととらえている。今後とも未然防止に向けての取組が必要である。いじめの件数を減らすことはもちろんのこと、起きたときの対応として、学校をあげてその解決、解消に努めることが大切である。また、ネットトラブル等、目に見えにくい問題も懸念される。日ごろの道徳の時間の指導をベースに、道徳教育の充実にも全力で取り組むよう各学校に働き掛ける。また、これまで以上に教員のもつアンテナを高くしながら、子どもたちの様子等を把握していく必要がある。</p>																										
学識経験者からの意見		<p>【菅井吉秀 氏】 昔のいじめ問題と違って陰湿化はますます進み、学校や教育委員会も苦慮することが多いと思います。特に、保護者研修における講師への依頼の仕方について、一工夫できればいいと思いました。</p> <p>【佐藤祐樹 氏】 解消率が90%を超えていることは、大変すばらしいことだと思います。いじめの認知はなかなか難しいことだと聞いておりますので、児童生徒に寄り添うような活動をし、さらに解消率を上げていただければいいと思います。</p>																										
予算の執行状況		(単位：円)																										
		予算額	決算額	決算額の財源内訳																								
				国(県)支出金	地方債	その他	一般財源																					
		3,177,000	467,487				467,487																					

事業番号		5	事業名		国際理解教育推進事業													
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()											
	1 項	教育総務費		第3節	新たな時代を創造する人材を育成する		()											
	3 目	教育指導奨励費		(1)	広い視野を持つ人材をはぐくむ		()											
目的及び事業内容		<p>幼稚園、小中学校及び高等学校におけるA L T（外国語指導助手）を活用しての授業や交流を通して外国語教育と国際理解教育の充実を図る。</p> <p>1 市立中学校・高等学校における外国語教育の充実 2 市立小学校における外国語活動の充実 3 市立幼稚園・けやき教室における国際理解教育の推進</p>																
取組実績		<p>1 市立中学校・高等学校 A L T 10名を配置し、週1～3回程度の配置で、1日当たり5時間程度の授業を行った。また、J E TプログラムのA L Tについては、部活動等課外活動にも意欲的に取り組み、授業以外の場面でも生徒と積極的に接した。</p> <p>2 市立小学校 5・6年生で行われている外国語活動の授業に合わせて週1回程度配置し、担任教師と連携しながら、児童が楽しみながらコミュニケーション能力の素地を養えるよう活動を行った。</p> <p>3 市立幼稚園・けやき教室 月1回程度の配置で、英語を使った活動等を行い、国際理解教育の充実を図った。</p>																
成果		<p>A L Tを中学校、高等学校を中心に小学校・幼稚園・けやき教室に配置し、外国語活動や外国語教育、国際理解教育を推進することができた。また、引き続き概ね高い水準で授業を「楽しい」と感じる生徒の割合を維持できており、外国語学習に対するモチベーションを高めることに大いに貢献している。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>主な指標項目</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A L Tとの授業が楽しいと感じる生徒の割合（中学1・2年生）</td> <td>85.0%</td> <td>79.0%</td> <td>80.4%</td> <td>88.2%</td> </tr> </tbody> </table>							主な指標項目	H23	H24	H25	H26	A L Tとの授業が楽しいと感じる生徒の割合（中学1・2年生）	85.0%	79.0%	80.4%	88.2%
主な指標項目	H23	H24	H25	H26														
A L Tとの授業が楽しいと感じる生徒の割合（中学1・2年生）	85.0%	79.0%	80.4%	88.2%														
成果に係る評価		<p>平成23度から小学校で外国語活動が完全実施され、A L Tと担任が協力して外国語活動の授業の充実に向けている。小学校においては、A L Tとの授業が楽しいと感じる児童の割合は91.6%である。中学校においても、1年生については、84.1%と80%を超えているが、学力差が顕著になってくる2年生においては、75.6%で英語という教科そのものに対する苦手意識が、数値に表れ、他の学年に比べ少し低い値になっている。学校によっても差が見られるので、A L Tの指導力を含め今後の改善について考えたい。また、小学校の英語の教科化と3学年からの外国語活動実施を見据え、段階的にA L Tの人数を増やしていきたい。</p>																
学識経験者からの意見		<p>【菅井吉秀 氏】 年々充実した取組みになっており、心から敬意を表します。学校現場の若い先生の中には、非常にヒアリングに長けている方が大勢おり、A L Tとのやりとりも以前と比べてはるかに容易だろうと思います。今後は日本人教師とA L Tとの質的向上についても、計画的に進める必要があると思いますので、陰に陽に教育委員会の指導をお願いします。</p> <p>【佐藤祐樹 氏】 A L Tとの授業を楽しんでいる生徒が大変多いことに驚きを感じます。楽しいと感じることは、授業に身が入って学力の向上にも期待できるのではないかと思います。今後とも事業の継続をお願いします。</p>																
予算の執行状況		(単位：円)																
		予算額	決算額	決算額の財源内訳														
				国(県)支出金	地方債	その他	一般財源											
		45,762,000	45,657,683				45,657,683											

事業コード		6	事業名		桜坂高等学校の魅力ある学校づくり事業			
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第 章	復興計画	(4)	未来のために伝統・文化を守り、人・新たな産業を育てる	
	4 項	高等学校費		第 節		(1)	未来の人を育てる	
	3 目	東日本大震災関係費		()		(1)	学校教育・社会教育施設等の復旧・復興	
目的及び事業内容		<p>【事業内容】平成27年4月に石巻市立桜坂高等学校を開校するに当たり、石巻市立高等学校統合事業基本計画（平成24年2月）に掲げている目指す学校像の達成に向けた事業を具現化するため、両校（女子高等学校、女子商業高等学校）の代表によるプロジェクト委員会を立ち上げ検討を続けるとともに、アドバイザー事業を実施し外部からのアドバイスを受ける。</p> <p>【事業目的】桜坂高等学校の教育方針を明確にして、特色ある教育活動を取り入れることで、石巻市の未来を担う人材の育成・輩出を目指すとともに、募集定員を確保する。</p>						
取組実績		<ol style="list-style-type: none"> 1 アドバイザー事業 計7回実施 2 桜坂高等学校学校説明会 講演会 1回実施（講師 有森裕子） 3 進路講座 1回実施 <ol style="list-style-type: none"> (1) 公務員試験講座 (2) コミュニケーション・マナー教室 (3) 進学希望者研修会 (4) 小論文指導 (5) 公務員試験講座 4 小笠原流礼法指導 1回実施 5 学校案内印刷 3,500部 各中学校等に配付 						
成果		<ol style="list-style-type: none"> 1 アドバイザーの導入は、桜坂高等学校の教育活動等を両校及び開設準備室で検討する際に効果的であった。 2 桜坂高等学校学校説明会を開催したところ約290人の中学生及び保護者が参加し、新設する桜坂高等学校を十分にアピールできた。オリンピックマラソンのメダリストである有森裕子氏の講演には、これからの時代を強く生きる女性像が含まれ、参加した中学生は自らの進路を積極的に開拓することを学んだ。 3 進路講座の実施は、桜坂高等学校の「教育の三本柱」の一つである「学力保証」の具現化に向けた、最初の施策（取り組み）となった。 4 同じく三本柱の一つである「礼法指導」の一環として導入した「小笠原流礼法指導」は、来年度の「礼法指導」の推進・充実につながるものとなった。 5 学校案内を印刷し、学校説明会及び中学校訪問等で配付し、桜坂高等学校を市内（県内）にアピールできた。 						
成果に係る評価		<ul style="list-style-type: none"> ・本事業は、平成27年4月開校に向けた「石巻市立桜坂高等学校」の教育活動等の検討及び学校のPR並びに両校統合に向けた作業に成果があったと評価できる。 ・平成27年度は、本事業を活用した桜坂高等学校の「教育の三本柱（品格教育、キャリア教育、学力保証）」の具体的な取り組み、より一層の推進・充実が求められている。 						
学識経験者からの意見		<p>【菅井吉秀 氏】 自主性の尊重について、日本の教育界では長く重んじられてきました。高校生としてあるべきしっかりした姿と形があって、初めて自主性の尊重が重んじられます。桜坂高等学校の品格教育に大いに期待したいと思います。</p> <p>【佐藤祐樹 氏】 生徒数が減少している中で、他の高校と競合する部分が大変多いと思います。桜坂高等学校の特徴を、今後ともさらにアピールしていく必要があると思います。</p>						
予算の執行状況		(単位：円)						
		予算額	決算額	決算額の財源内訳				
				国(県)支出金	地方債	その他	一般財源	
8,338,000	6,394,000			1,890,000	4,504,000			

事業番号		7-1	事業名		スクールカウンセラー配置事業																							
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第 章	復興計画	(4)	未来のために伝統・文化を守り、人・新たな産業を育てる																					
	1 項	教育総務費		第 節		(1)	未来の人を育てる																					
	7 目	東日本大震災関係費		()		(3)	子どものケアの実施																					
目的及び事業内容		<p>カウンセラーの相談活動により、児童生徒・保護者・教職員の心理面における安定を図るとともに、児童生徒の健全育成に資する。</p> <p>1 スクールカウンセラーの配置 2 生徒・保護者・教職員・学区内小学生等の要望に応じたカウンセリングの実施 3 カウンセラーを活用してのカウンセリング研修等の実施</p>																										
取組実績		<p>1 スクールカウンセラーの配置 中学校全20校に配置（中学校カウンセラー及び広域スクールカウンセラー） 希望した小学校32校に配置（広域スクールカウンセラー）</p> <p>2 カウンセラーの配置状況 (1) 中学校 年間35～38回、小学校 年間5～8回 (2) 1回あたりの時間（県で決定） 6～8時間</p> <p>3 カウンセリング研修等の実施 各学校で研修日を設定して実施 （内容）カウンセリング実技研修、エンカウンター実習など</p>																										
成果		<p>中学校はもとより多くの小学校にもスクールカウンセラーが配置されており、スクールカウンセラーに相談できる体制が整備されつつある。それが相談件数の増加につながっており、震災後の心のケアも含め、学校や家族の問題等の解決の一助としての役割を担っている。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>主な指標項目</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>相談件数</td> <td>5,420件</td> <td>5,241件</td> <td>5,700件</td> </tr> <tr> <td>相談人数</td> <td>5,984人</td> <td>5,857人</td> <td>6,817人</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">H26相談人数割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童生徒</td> <td>34.1%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>34.1%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>31.8%</td> </tr> </tbody> </table>							主な指標項目	H24	H25	H26	相談件数	5,420件	5,241件	5,700件	相談人数	5,984人	5,857人	6,817人	H26相談人数割合		児童生徒	34.1%	教職員	34.1%	保護者	31.8%
主な指標項目	H24	H25	H26																									
相談件数	5,420件	5,241件	5,700件																									
相談人数	5,984人	5,857人	6,817人																									
H26相談人数割合																												
児童生徒	34.1%																											
教職員	34.1%																											
保護者	31.8%																											
成果に係る評価		<p>児童生徒に対する心理面における専門的指導の重要性を考慮して、多くの学校に配置できたことが成果につながっていると考えられる。相談の件数、人数とも増加している。配置校の児童・生徒・保護者・教職員からの相談に対応し、配置校内で教職員向けの研修会等も実施し、積極的な生徒指導につながっていると考えられる。今後も継続的な配置が必要である。また、震災後の心のケアの面からも、長期的にカウンセラーによる相談体制の充実と連携を図っていくことが重要である。</p>																										
学識経験者からの意見		<p>【佐藤祐樹 氏】 震災が児童生徒の心に残した傷は、想像を絶するものと聞いております。心のケアはまだ必要であると感じますので、今後とも力を注いでいただきたいと思っております。</p>																										
予算の執行状況		（単位：円）																										
		予算額	決算額	決算額の財源内訳																								
				国(県)支出金	地方債	その他	一般財源																					
547,600	264,082			264,082																								

事業番号		7-2	事業名		スクールソーシャルワーカー配置事業																																																		
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第 章	復興計画	(4)	未来のために伝統・文化を守り、人・新たな産業を育てる																																																
	1 項	教育総務費		第 節		(1)	未来の人を育てる																																																
	7 目	東日本大震災関係費		()		(3)	子どものケアの実施																																																
目的及び事業内容		<p>小中学校における相談体制や関係機関との連携体制の充実を図り、不登校対応を中心に、暴力行為、児童虐待などの問題行動の早期対応や早期解決を図る。</p> <p>1 問題を抱える児童生徒が置かれた環境（家庭や学校等）に対して面談などの働き掛けを行う。</p> <p>2 児童相談所などの関係諸機関とのネットワークの構築と連携や調整に努める。</p> <p>3 市内小中学校における校内での支援体制やチーム体制の整備の支援を行う。</p> <p>4 市内小中学校の教職員・保護者への相談や研修会等での啓発活動・情報提供に努める。</p>																																																					
取組実績		<p>スクールソーシャルワーカーについて</p> <p>1 スクールソーシャルワーカーは5名が配置されており、児童生徒や家庭の状況を踏まえ、ケースごとに児童相談所や市民相談センターなどの関係機関と連携して対応している。</p> <p>また、震災後の児童生徒のケアについても、学校に配置されているスクールカウンセラーと連携することはもとより、児童精神科医とも連携しており、専門的な見地から適切な対応がなされるよう働き掛けている。</p> <p>○配置状況(平成27年3月末現在) 5名配置</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>拠点校</th> <th>勤務時間、日数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>門脇小、大川小、石巻市教育委員会</td> <td>1日 6時間、週3日</td> </tr> <tr> <td>向陽小、青葉中</td> <td>1日 6時間、週2日</td> </tr> <tr> <td>稲井中、渡波中</td> <td>1日 6時間、週2日</td> </tr> <tr> <td>石巻市教育委員会</td> <td>1日 6時間、週1日</td> </tr> <tr> <td>万石浦中、桃生中</td> <td>1日 6時間、週1日</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 訪問活動：勤務総日数延べ467日（家庭訪問延べ186件、学校訪問940件）</p> <p>連携した機関：児童相談所、健康推進課、市民相談センター（虐待防止センター）、精神科医、警察署等</p>						拠点校	勤務時間、日数	門脇小、大川小、石巻市教育委員会	1日 6時間、週3日	向陽小、青葉中	1日 6時間、週2日	稲井中、渡波中	1日 6時間、週2日	石巻市教育委員会	1日 6時間、週1日	万石浦中、桃生中	1日 6時間、週1日																																				
拠点校	勤務時間、日数																																																						
門脇小、大川小、石巻市教育委員会	1日 6時間、週3日																																																						
向陽小、青葉中	1日 6時間、週2日																																																						
稲井中、渡波中	1日 6時間、週2日																																																						
石巻市教育委員会	1日 6時間、週1日																																																						
万石浦中、桃生中	1日 6時間、週1日																																																						
成果		<p>1 スクールソーシャルワーカーの仕事内容が学校及び関係機関に理解され、連携がスムーズになった。</p> <p>2 問題を抱える児童生徒の家庭訪問等を行い、少しずつ登校できるようになった。</p> <p>3 震災の影響で子どもに目を向ける余裕のない保護者の話をじっくり聞くことにより、気持ちの余裕が出てきた。</p> <p>4 教員に対してコンサルテーションを行うことにより、教員の悩みを共有することができた。</p> <p>5 スクールソーシャルワーカーを5名配置することにより、これまでできなかった様々なケースにも対応できた。</p> <p>○支援対象児童生徒数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>主な指標項目</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学生</td> <td>68人</td> <td>80人</td> <td>80人</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>91人</td> <td>100人</td> <td>100人</td> </tr> </tbody> </table> <p>○相談内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>相談内容</th> <th>件数</th> <th>問題が解決</th> <th>支援中で好転</th> <th>支援中</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>不登校</td> <td>62件</td> <td>6件</td> <td>11件</td> <td>45件</td> <td>0件</td> </tr> <tr> <td>暴力、非行・不良行為</td> <td>2件</td> <td>1件</td> <td>0件</td> <td>1件</td> <td>0件</td> </tr> <tr> <td>児童虐待</td> <td>11件</td> <td>1件</td> <td>2件</td> <td>7件</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>家庭環境の問題</td> <td>73件</td> <td>5件</td> <td>20件</td> <td>46件</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>14件</td> <td>0件</td> <td>8件</td> <td>6件</td> <td>0件</td> </tr> </tbody> </table>						主な指標項目	H24	H25	H26	小学生	68人	80人	80人	中学生	91人	100人	100人	相談内容	件数	問題が解決	支援中で好転	支援中	その他	不登校	62件	6件	11件	45件	0件	暴力、非行・不良行為	2件	1件	0件	1件	0件	児童虐待	11件	1件	2件	7件	1件	家庭環境の問題	73件	5件	20件	46件	2件	その他	14件	0件	8件	6件	0件
主な指標項目	H24	H25	H26																																																				
小学生	68人	80人	80人																																																				
中学生	91人	100人	100人																																																				
相談内容	件数	問題が解決	支援中で好転	支援中	その他																																																		
不登校	62件	6件	11件	45件	0件																																																		
暴力、非行・不良行為	2件	1件	0件	1件	0件																																																		
児童虐待	11件	1件	2件	7件	1件																																																		
家庭環境の問題	73件	5件	20件	46件	2件																																																		
その他	14件	0件	8件	6件	0件																																																		
成果に係る評価		<p>スクールソーシャルワーカーは、小・中学校における不登校、家庭問題、暴力行為、児童虐待、非行・不良行為、発達障害等の児童生徒に係る諸問題について学校と家庭を訪問し、家庭福祉や保健・医療の関係機関、警察やその他の専門機関と連携し、学校だけでは解決できない問題の早期対応や早期改善を図ってきた。スクールソーシャルワーカーが介入することにより、児童生徒、家庭、教職員が学校と一体となって問題に対応できるようになった。今後、長期的に事業を活用していきたい。</p>																																																					
学識経験者からの意見		<p>【菅井吉秀氏】 担当者の苦勞が見えるようで心が痛みます。この事業は、今後も継続をお願いしたいと思います。</p> <p>【佐藤祐樹氏】 デリケートで難しい部分が多い大変な事業だと思いますが、関係機関と連携して今後とも手を抜かないで一生涯懸命やっていただきたいと思います。</p>																																																					
予算の執行状況		(単位：円)																																																					
		予算額	決算額	決算額の財源内訳																																																			
				国(県)支出金	地方債	その他	一般財源																																																
		12,565,000	10,453,935	10,453,935																																																			

事業番号		7-3	事業名		ハイスクールカウンセラー配置事業																																								
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第 章	復興計画	(4)	未来のために伝統・文化を守り、人・新たな産業を育てる																																						
	1 項	教育総務費		第 節		(1)	未来の人を育てる																																						
	7 目	東日本大震災関係費		()		(3)	子どものケアの実施																																						
目的及び事業内容		<p>カウンセラーによる相談活動を通して、生徒・保護者・教職員の精神的安定を図るとともに、問題行動等の未然防止や解決による生徒の健全育成に資する。</p> <p>1 ハイスクールカウンセラーの配置 2 生徒・保護者・教職員へのカウンセリングの実施 3 学校におけるカウンセリング講座等の支援活動</p>																																											
取組実績		<p>1 ハイスクールカウンセラーの配置 市立高等学校2校に配置</p> <p>2 生徒・保護者・教職員の要望に応じたカウンセリングの実施 1日6時間、年間30日の勤務を原則とし、月平均2～3日の勤務体制でカウンセリングを実施した。</p> <p>3 カウンセリング講座等の支援活動 (1) 教職員・生徒を対象としたカウンセリングに関する講座の実施（2回） (2) 教育相談情報交換会・ケース会議（6回）の実施</p>																																											
成 果		<p>生徒の不安や悩みの状況に応じたカウンセリングが実施されており、生徒の心の安定を図る上で効果的に機能している。また、カウンセラーと教職員との情報交換やケース会議等を通じて、学校内で連携が取られ、心の問題を抱える生徒に対して適時な対応を行うことができた。特に支援が必要な生徒については、カウンセラー・教育相談係・養護教諭・担任等との連携により、本人及び保護者に対するアドバイス等を行うことで成果が上がっている。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>主な指標項目</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>相談件数</td> <td>244件</td> <td>245件</td> <td>292件</td> <td>285件</td> <td>222件</td> </tr> <tr> <td>相談人数</td> <td>342人</td> <td>314人</td> <td>358人</td> <td>354人</td> <td>272人</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>H26相談人数内訳</th> <th>生 徒</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>女子高校</td> <td>36人</td> <td>69人</td> <td>6人</td> <td>111人</td> </tr> <tr> <td>女子商業高校</td> <td>48人</td> <td>110人</td> <td>3人</td> <td>161人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>84人</td> <td>179人</td> <td>9人</td> <td>272人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 生徒の相談内容は、多い順に、「人間関係・友人関係」、「家族関係」、「学校生活」である。 ※ 教職員の相談件数は、「情報交換」だけで122件である。 ※ 「震災関係」の相談はなかった。</p>						主な指標項目	H22	H23	H24	H25	H26	相談件数	244件	245件	292件	285件	222件	相談人数	342人	314人	358人	354人	272人	H26相談人数内訳	生 徒	教職員	保護者	計	女子高校	36人	69人	6人	111人	女子商業高校	48人	110人	3人	161人	計	84人	179人	9人	272人
主な指標項目	H22	H23	H24	H25	H26																																								
相談件数	244件	245件	292件	285件	222件																																								
相談人数	342人	314人	358人	354人	272人																																								
H26相談人数内訳	生 徒	教職員	保護者	計																																									
女子高校	36人	69人	6人	111人																																									
女子商業高校	48人	110人	3人	161人																																									
計	84人	179人	9人	272人																																									
成果に係る評価		<p>多感な時期にある高校生は心にかかえる悩みも多く、カウンセラーに話を聞いてもらうことによって支えられる部分も大きい。生徒の心を安定させ、落ち着いた学校生活を送らせるためには、カウンセラーによる相談体制を維持することは必要である。平成27年度からは桜坂高等学校として、今までであった二つの学校が一つの校舎で学校生活を送ることとなり、何かにつけストレスを感じ、問題行動等の増加も心配される。これらのことから、ハイスクールカウンセラー配置事業の効果は大きく、今後も継続が必要である。</p>																																											
学識経験者からの意見		<p>【菅井吉秀 氏】 悩める生徒の支えとして、今後も引き続き取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>【佐藤祐樹 氏】 16歳～18歳は心が揺れる難しい年頃だと聞きます。心のよりどころとなるよう、また、相談に乗ってあげられるようカウンセリングを続けていただきたいと思います。</p>																																											
予算の執行状況		(単位：円)																																											
		予算額	決算額	決算額の財源内訳																																									
				国(県)支出金	地方債	その他	一般財源																																						
1,880,400	1,880,400			1,880,400																																									

事業コード		8	事業名		心のケア充実事業①			
予算科目	款		総合計画	第 章		復興計画	(4)	未来のために伝統・文化を守り、人・新たな産業を育てる
	項			第 節			(1)	未来の人を育てる
	目			()			(3)	子どものケアの実施
目的及び事業内容		<p>震災により、心に深い傷を受けた園児、児童生徒等に対し、医療専門家による巡回相談や健康実態調査を行い、よりきめ細やかな心のケアを実施する。</p> <p>1 医療専門家による巡回相談の実施 2 園児、児童生徒に対する健康実態調査の実施 3 園児、児童生徒等の心のケアに携わる者が一体となった心の支援体制の確立</p>						
取組実績		<p>1 医療専門家による巡回相談の実施 震災直後から支援に入っている国立国際医療研究センター国府台病院（千葉県）の児童精神科の医師が定期的に来石し、要請に基づいて、問題を抱えた児童生徒やその保護者、教員に対する相談活動を行っている。</p> <p>2 園児、児童生徒に対する健康実態調査の実施 市立幼稚園、小・中学校及び高等学校の全園児、児童生徒に対して「健康実態調査」を行い、震災後の園児、児童生徒の心身の健康状態に関するデータを集約し、その結果について各園・学校にフィードバックを行い、支援や指導の充実に役立てている。</p> <p>3 園児、児童生徒等の心のケアに携わる者が一体となった心の支援体制の確立 毎月、関係機関が集まり、児童精神科の医師がスーパーバイザーとなって、問題を抱える子どもたちに対するケース会議を行っている。</p>						
成 果		<p>1 毎月、1～3名の児童精神科の医師が2～3日間石巻市に滞在し、要請のあった学校及び家庭等を訪問し、相談活動を行った。専門的な立場からアドバイスをいただき、支援や指導に役立てているとともに、必要な場合は、県内の病院につなぐケースもある。H26は、のべ31日間にわたって、99件の相談に対応いただいた。</p> <p>2 H23から継続して実態調査を行い、データに基づいて、支援や指導のアドバイスをいただいている。トラウマについては、H25とH26であまり変化が見られないことから、一応落ち着いたとの判断をいただいた。フィードバックの際は、学校ごとに面談し、全体の傾向だけでなく、学校の傾向や配慮を必要とする児童生徒についてもアドバイスいただいております、その後の指導に生かしている。</p> <p>3 「石巻市子ども支援関係者会議」の名称で関係機関が一堂に会し、毎月問題を抱える児童生徒のケース会議を行い、支援に役立てている。 (メンバー) 国府台病院児童精神科医師、精神科医師、児童相談所、虐待防止センター、保護課、健康推進課、SSW、学校教育課、当該学校職員等</p>						
成果に係る評価		<p>相談活動に関しては、身近に専門家がないため、定期的に要請する学校もある。児童生徒本人のみならず、その養育に悩む保護者や指導に苦慮している教員のニーズは非常に高い。</p> <p>また、健康実態調査についても、継続して結果を累積することにより、児童生徒一人一人の過去から現在にわたる状態を把握することができ、積極的な支援や指導を行う上で役に立っている。</p> <p>子ども支援会議についても、学校単独では対応しきれない事例が多くなってきており、家庭の問題等について様々な立場からの情報をもとに話し合いを行うことができる機会として、大切な役割を担っている。</p>						
学識経験者からの意見		<p>【菅井吉秀 氏】 被災地にとってありがたい事業だと思っていましたが、さらに教育委員会で予算化してこの事業を推進するという事ですので、予算確保が大変だと思いますけれども、今後も継続して事業を充実できるようお願いします。</p> <p>【佐藤祐樹 氏】 フラッシュバック現象というのは、事が起こって数年後、又は数十年後でも発症するそうです。心のケアは今後も続けていただきたい事業の一つだと考えます。</p>						
予算の執行状況		(単位：円)						
		予算額	決算額	決算額の財源内訳				
				国(県)支出金	地方債	その他	一般財源	

事業番号		9	事業名		防災教育充実事業			
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第 章	復興計画	(4)	未来のための伝統・文化を守り、人・新たな産業を育てる	
	1 項	教育総務費		第 節		(1)	未来の人を育てる	
	7 目	東日本大震災関係費		()		(3)	子どものケアの実施	
目的及び事業内容		<p>地域ぐるみの防災教育の実践を通して、非常時においても地域との絆が生かされる基盤を形成し、子どもにとって安心、安全な地域環境づくりを進めるとともに、教材等の作成を通して、児童生徒が災害と向き合い、たくましく生きる災害対応能力の育成を促進する。</p> <p>1 地域ぐるみの防災教育の推進 2 児童生徒の災害対応能力の育成のための学校教材等の作成</p>						
取組実績		<p>1 学校防災推進会議の設置と協議 有識者、学校関係者、市担当部局、関係機関担当者等で構成する学校防災推進会議において、市としての学校防災の今後の在り方について協議を行い、協議結果を基に具体的な事業を展開した。主な事業としては、「学校防災基本方針」の改訂、「震災のまとめ記録集」の作成、「学校防災マニュアル」のチェックリストの作成、点検及び改善の指導を行った。また、小・中・高校生を対象にした「防災合言葉コンクール」を実施した。</p> <p>2 防災教育副読本・実践事例集の発行 本市の実態に即した防災教育推進のため、防災教育副読本を継続作成した。また、指導事例の累積と具体的な指導法の紹介を目的とし、副読本の実践事例集を作成し、全小中学校に配布した。</p> <p><平成26年度実績> ・防災教育副読本 小学校下学年用 1,200冊 小学校上学年用 1,200冊 中学校用 1,700冊 ・実践事例集 1,000冊</p>						
成果		<p>1 学校防災推進会議では、各ワーキンググループのテーマに基づき、具体的な事業を実践した。「学校防災マニュアル」のチェックリストの作成、点検及び改善の指導では、各担当者が市内全学校の防災主任に学校防災マニュアルに対する指導を行ったことにより、より内容の充実が図られた。また、避難訓練では地域や保護者との連携を図った実践的な防災訓練を実施することにより、児童生徒及び地域住民の防災への意識啓発に繋がった。</p> <p>2 副読本を活用した防災教育を展開することにより、児童生徒の防災に関する知識と災害対応力が向上した。 実践事例集を教師が活用することにより、副読本を活用した防災教育の向上が図られるとともに、教師自身の災害対応力の向上が図られた。</p>						
成果に係る評価		<p>学校防災推進会議では、地域防災連絡会の設置を促してきた。学校では地域と連携し避難訓練を実施することにより、学校防災の一層の充実を図ることができた。 また、今後も防災教育副読本の実践事例集を活用した防災教育を進めることにより、学校全体での災害対応力の向上に努めていくことが重要である。</p>						
学識経験者からの意見		<p>【菅井吉秀 氏】 本市では必要不可欠な事業であり、地震・津波・台風といった自然災害は避けられない状況です。また、人による災難もあり全く油断できない時代ですから、今後もこの事業を追及し、マンネリ化にならないような方法で継続指導していただきたいと思います。</p> <p>【佐藤祐樹 氏】 だんだん薄れていく災害時の意識・記憶、「喉元過ぎれば熱さを忘れる」ということにならないように、繰り返し防災教育や訓練を行うことで、防災意識の啓発に努めていただきたいと思います。</p>						
予算の執行状況		(単位：円)						
		予算額	決算額	決算額の財源内訳				
				国(県)支出金	地方債	その他	一般財源	
1,738,000	1,541,870			1,541,870				

事業番号		10-1	事業名		学校図書整備事業（小学校）																																						
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手ははぐくむまち	復興計画	()																																				
	2 項	小学校費		第1節	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する		()																																				
	2 目	教育振興費		(3)	充実した教育を行える環境をつくる		()																																				
目的及び事業内容		全国的な傾向である小中学生の読書離れが進む中、文部科学省では子どもの読書活動の推進や学校教育における言語力の涵養に資するためには、学校図書館の充実が必要であるとの認識に基づき、平成24年度から平成28年度までの5年間で新たな「学校図書館図書整備5カ年計画」として策定し、整備を推進している。本市も学校教育の中で、学校図書を積極的に活用し、児童生徒の読書活動を一層推進することにより豊かな人格形成、基礎的な言語力を育む等、学習効果の向上を図るために、市内小中学校の学校図書を整備するもの。																																									
取組実績		<p>市内全ての小学校において、学校図書館標準書数に対する充足率が100%となることを目標とし、低充足率の学校に予算を重点配分したことによる購入のほか、厚意での図書の寄附による整備により学校図書の充実を図った。</p> <p>平成26年度は、大口の図書の寄贈があったため、図書整備数が増加した。</p> <p><小学校図書の整備冊数></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>32,143冊</td> <td>17,276冊</td> <td>24,512冊</td> <td>25,027冊</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 寄贈含む。</p>							H23	H24	H25	H26	32,143冊	17,276冊	24,512冊	25,027冊																											
H23	H24	H25	H26																																								
32,143冊	17,276冊	24,512冊	25,027冊																																								
成果		<p>学校図書の整備充実を図り、学習活動に積極的に活用することにより学習効果が図られ、児童が自ら進んで言葉を学び、感性・表現力・創造力等の生きる力がより育成された。</p> <p>平成26年度は多くの寄贈を受けたため、整備冊数が大幅に増えたことにより充足率の向上が図られ、学習効果の向上が図られた。</p> <p><小学校図書充足率達成状況></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>達成率</th> <th>平成23年度末</th> <th>平成24年度末</th> <th>平成25年度末</th> <th>平成26年度末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100%以上 (A)</td> <td>8校</td> <td>9校</td> <td>12校</td> <td>11校</td> </tr> <tr> <td>75%以上-100%未満</td> <td>11校</td> <td>10校</td> <td>14校</td> <td>18校</td> </tr> <tr> <td>50%以上-75%未満</td> <td>18校</td> <td>18校</td> <td>11校</td> <td>8校</td> </tr> <tr> <td>50%未満</td> <td>6校</td> <td>5校</td> <td>2校</td> <td>0校</td> </tr> <tr> <td>合計 (B)</td> <td>43校</td> <td>42校</td> <td>39校</td> <td>37校</td> </tr> <tr> <td>100%以上達成校の割合 (A/B)</td> <td>18.60%</td> <td>21.43%</td> <td>30.77%</td> <td>29.73%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※平成26年度末の数値には、休校中の荻浜小学校は含めていない。</p>							達成率	平成23年度末	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末	100%以上 (A)	8校	9校	12校	11校	75%以上-100%未満	11校	10校	14校	18校	50%以上-75%未満	18校	18校	11校	8校	50%未満	6校	5校	2校	0校	合計 (B)	43校	42校	39校	37校	100%以上達成校の割合 (A/B)	18.60%	21.43%	30.77%	29.73%
達成率	平成23年度末	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末																																							
100%以上 (A)	8校	9校	12校	11校																																							
75%以上-100%未満	11校	10校	14校	18校																																							
50%以上-75%未満	18校	18校	11校	8校																																							
50%未満	6校	5校	2校	0校																																							
合計 (B)	43校	42校	39校	37校																																							
100%以上達成校の割合 (A/B)	18.60%	21.43%	30.77%	29.73%																																							
成果に係る評価		<p>学校図書を学習活動に積極的に活用し、学習効果の向上を図るには、児童の課題解決に沿った図書が整備充実され、いつでも気軽に利用できるような環境を整えることが必要である。学校図書整備はその基本となる事業であり、今後とも読書環境の整備に努めたい。</p> <p>老朽化した図書が多くなってきているので、計画的な図書の更新を図りたい。</p>																																									
学識経験者からの意見		<p>【菅井吉秀 氏】</p> <p>図書の充足率の向上にかなり努力されている状況がよく理解できました。小学校の現場では、ボランティアによる読み聞かせの活動や、学校行事としての読書祭りなどで、学習効果を上げていることも聞いております。なお今後も一層充実した事業になるよう期待します。</p> <p>【佐藤祐樹 氏】</p> <p>低学年からの読書習慣が、その後の活字離れの予防になると考えます。図書の更新によって、より多くの興味を持ってもらえますよう頑張っていきたいと思っております。</p>																																									
予算の執行状況		(単位：円)																																									
		予算額	決算額	決算額の財源内訳																																							
				国(県)支出金	地方債	その他	一般財源																																				
		20,700,000	20,603,405			4,682,000	15,921,405																																				

事業番号		10-2	事業名		学校図書整備事業（中学校）																																						
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()																																				
	3 項	中学校費		第1節	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する		()																																				
	2 目	教育振興費		(3)	充実した教育を行える環境をつくる		()																																				
目的及び事業内容		全国的な傾向である小中学生の読書離れが進む中、文部科学省では子どもの読書活動の推進や学校教育における言語力の涵養に資するためには、学校図書館の充実が必要であるとの認識に基づき、平成24年度から平成28年度までの5年間を新たな「学校図書館図書整備5カ年計画」として策定し、整備を推進している。本市も学校教育の中で、学校図書を積極的に活用し、児童生徒の読書活動を一層推進することにより豊かな人格形成、基礎的な言語力を育む等、学習効果の向上を図るために、市内小中学校の学校図書を整備するもの。																																									
取組実績		<p>市内全ての中学校において、学校図書館標準書数に対する充足率が100%となることを目標とし、低充足率の学校に予算を重点配分したことによる購入のほか、厚意での図書の寄附による整備により学校図書の充実を図った。</p> <p>図書の設置スペースが少なくなっていることから、昨年度より購入数が少なくなった。</p> <p><中学校図書の本数></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10,475冊</td> <td>7,832冊</td> <td>17,497冊</td> <td>12,477冊</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 寄贈含む。</p>							H23	H24	H25	H26	10,475冊	7,832冊	17,497冊	12,477冊																											
H23	H24	H25	H26																																								
10,475冊	7,832冊	17,497冊	12,477冊																																								
成果		<p>学校図書の整備充実を図り、学習活動に積極的に活用することにより学習効果が図られ、生徒が自ら進んで言葉を学び、感性・表現力・創造力等の生きる力がより育成された。</p> <p>充足率は上昇しているものの、図書の老朽化による廃棄のため、前年よりも充足率が減少している学校があった。</p> <p><中学校図書充足率達成状況></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>達成率</th> <th>平成23年度末</th> <th>平成24年度末</th> <th>平成25年度末</th> <th>平成26年度末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100%以上 (A)</td> <td>1校</td> <td>2校</td> <td>3校</td> <td>3校</td> </tr> <tr> <td>75%以上-100%未満</td> <td>5校</td> <td>4校</td> <td>5校</td> <td>7校</td> </tr> <tr> <td>50%以上-75%未満</td> <td>12校</td> <td>12校</td> <td>9校</td> <td>6校</td> </tr> <tr> <td>50%未満</td> <td>3校</td> <td>3校</td> <td>3校</td> <td>4校</td> </tr> <tr> <td>合計(B)</td> <td>21校</td> <td>21校</td> <td>20校</td> <td>20校</td> </tr> <tr> <td>100%以上達成校の割合 (A/B)</td> <td>4.76%</td> <td>9.52%</td> <td>15.00%</td> <td>15.00%</td> </tr> </tbody> </table>							達成率	平成23年度末	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末	100%以上 (A)	1校	2校	3校	3校	75%以上-100%未満	5校	4校	5校	7校	50%以上-75%未満	12校	12校	9校	6校	50%未満	3校	3校	3校	4校	合計(B)	21校	21校	20校	20校	100%以上達成校の割合 (A/B)	4.76%	9.52%	15.00%	15.00%
達成率	平成23年度末	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末																																							
100%以上 (A)	1校	2校	3校	3校																																							
75%以上-100%未満	5校	4校	5校	7校																																							
50%以上-75%未満	12校	12校	9校	6校																																							
50%未満	3校	3校	3校	4校																																							
合計(B)	21校	21校	20校	20校																																							
100%以上達成校の割合 (A/B)	4.76%	9.52%	15.00%	15.00%																																							
成果に係る評価		<p>学校図書を学習活動に積極的に活用し、学習効果の向上を図るには、生徒の課題解決に沿った図書が整備充実され、いつでも気軽に利用できるような環境を整えることが必要である。学校図書整備はその基本となる事業であり、今後とも読書環境の整備に努めたい。</p> <p>渡波中、雄勝中については、仮設校舎、間借り校舎であり、設置スペースから図書の充足率が伸びていない。学校再建に合わせ、充足率の向上を図りたい。</p>																																									
学識経験者からの意見		<p>【菅井吉秀 氏】 中学校では担当教師の働きかけで、図書の活用状況が大きく違ってきます。校長会や教頭会等において、教育委員会から図書活用についての指導をお願いします。</p> <p>【佐藤祐樹 氏】 パソコンやタブレットの発達・普及が進み、ますます活字離れが加速しているこの頃ですが、図書環境の整備は活字への興味・関心を持たせるための入口になっていると感じます。図書の更新により、その入り口がますます大きくなるように努めていただきたいと思います。</p>																																									
予算の執行状況		(単位：円)																																									
		予算額	決算額	決算額の財源内訳																																							
				国(県)支出金	地方債	その他	一般財源																																				
		19,000,000	18,526,905			4,305,000	14,221,905																																				

事業番号		11	事業名		学校施設太陽光発電設備整備事業		
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第 章	復興計画	(4)	未来のために伝統・文化を守り、人・新たな産業を育てる
	2・3 項	小学校費・中学校費 高等学校費		第 節		(1)	未来の人を育てる
	1 目	学校管理費 東日本大震災関係費		()		(1)	学校教育・社会教育施設等の復旧・復興
目的及び事業内容		指定避難場所となる学校施設において太陽光発電設備の整備を行い、非常時における電源を確保する。					
取組実績		<p>平成26年度 整備実績 整備校 石巻小学校、釜小学校、稲井小学校、万石浦小学校、 門脇中学校、蛇田中学校、稲井中学校、 桜坂高等学校</p> <p>平成27年度整備に向け、設計を実施した学校数 小学校 9校 中学校 7校</p>					
成 果		<p>学校施設は指定避難場所に指定されており、災害発生時においては、重要な役割を担っていることから、本事業により防災機能の強化が図られた。</p> <p>平成26年度末において、13校の整備が図られ、平成27年度末では、29校となる見込みである。</p>					
成果に係る評価		<p>学校施設は、児童生徒が一日の大半を過ごす学習・生活の場であり、また、地域住民にとっても身近な公共施設であるとともに災害発生時の避難場所として重要な役割を担っている。</p> <p>「公共施設における防災機能等の強化に関する基本方針」に基づき、太陽光発電システム等を整備し、防災機能の強化を推進するため、事業を継続する必要がある。</p>					
学識経験者からの意見		<p>【菅井吉秀 氏】 防災機能強化推進先進地としてすばらしい事業だと思います。今後もなお一層の防災機能強化充実にご努力をお願いします。</p> <p>【佐藤祐樹 氏】 震災の後の停電で、電気がいかに大切で生活に深く関わっているか、改めて感じさせられました。非常時の電源を確保するという事は、二次災害を防止するためにも大切なことだと思います。事業の継続をお願いします。</p>					
予算の執行状況		(単位：円)					
		予算額	決算額	決算額の財源内訳			
				国(県)支出金	地方債	その他	一般財源
317,861,000	296,499,028	86,603,760		50,121,000	159,774,268		

事業番号		12	事業名		コラボスクール推進委託事業																																																
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()																																														
	6 項	社会教育費		第2節	地域全体で子どもたちを育成する		()																																														
	1 目	社会教育総務費		(1)	地域・家庭の教育力を強化する		()																																														
目的及び事業内容		学校・家庭・地域が協働して、子どもたちの生きる力を育む教育活動の充実・改善を目指し、社会の中でたくましく生きる子どもを地域全体で育む。																																																			
取組実績		<p>1 協働教育支援会議2回開催 6月30日 14人出席・2月5日 18人</p> <p>2 コラボスクール推進事業（市内小学校区2 中学校区1推進協議会へ委託）</p> <p>(1) 釜小学校区コラボスクール推進事業</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動内容</th> <th>回数</th> <th>参加延人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①授業の補助</td> <td>19回</td> <td>79人</td> </tr> <tr> <td>②環境整備</td> <td>7回</td> <td>119人</td> </tr> <tr> <td>③登下校・安全指導</td> <td>0回</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④学校行事</td> <td>2回</td> <td>260人</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 大原小学校区コラボスクール推進事業</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動内容</th> <th>回数</th> <th>参加延人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①授業の補助</td> <td>30回</td> <td>157人</td> </tr> <tr> <td>②環境整備</td> <td>0回</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>③登下校・安全指導</td> <td>0回</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④学校行事</td> <td>1回</td> <td>21人</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 桃生中学校区コラボスクール推進事業</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動内容</th> <th>回数</th> <th>参加延人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①授業の補助</td> <td>15回</td> <td>275人</td> </tr> <tr> <td>②環境整備</td> <td>0回</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>③登下校・安全指導</td> <td>0回</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④学校行事</td> <td>4回</td> <td>24人</td> </tr> </tbody> </table>							活動内容	回数	参加延人数	①授業の補助	19回	79人	②環境整備	7回	119人	③登下校・安全指導	0回	0人	④学校行事	2回	260人	活動内容	回数	参加延人数	①授業の補助	30回	157人	②環境整備	0回	0人	③登下校・安全指導	0回	0人	④学校行事	1回	21人	活動内容	回数	参加延人数	①授業の補助	15回	275人	②環境整備	0回	0人	③登下校・安全指導	0回	0人	④学校行事	4回	24人
活動内容	回数	参加延人数																																																			
①授業の補助	19回	79人																																																			
②環境整備	7回	119人																																																			
③登下校・安全指導	0回	0人																																																			
④学校行事	2回	260人																																																			
活動内容	回数	参加延人数																																																			
①授業の補助	30回	157人																																																			
②環境整備	0回	0人																																																			
③登下校・安全指導	0回	0人																																																			
④学校行事	1回	21人																																																			
活動内容	回数	参加延人数																																																			
①授業の補助	15回	275人																																																			
②環境整備	0回	0人																																																			
③登下校・安全指導	0回	0人																																																			
④学校行事	4回	24人																																																			
成果		2小学校・1中学校の学区とも被災した地域だったり、仮設住宅が建っていたりする地域だが、学校・家庭・地域の協働の取組みにより事業を推進した。その結果、地域後継者の育成・郷土芸能の伝承・小中協力してのPTA行事運営と各校それぞれが取り組む協働活動の深化に繋がった。協働活動に取り組むことで児童生徒の「ふるさとを大切にす意識」が向上し「人と人との繋がりの大切さ」を実感させることができた。																																																			
成果に係る評価		震災により被害が甚大だった沿岸部、早い時期に復旧ができた内陸部、人の出入りが激しい市内。全ての地区が同じフォーマットで協働教育を行うことが困難な現状を打開すべく、防災、郷土芸能、地場産業への後継者育成など、複数のモデル地区をつくり協働教育の模索に取り組んだ。家庭と地域と学校を相互につなぐ役割を担う学校支援地域コーディネーターの育成が現在最大の課題である。コラボスクール校にはその役割を担える人材探しも依頼、協力者を募った。今後はこの人材を地域の協働教育の要として育成し地域の教育力の向上と活性化を図る。地域人材と外部ボランティア双方の力と特色を生かし、地域活性化につなげていきたい。																																																			
学識経験者からの意見		<p>【菅井吉秀 氏】</p> <p>震災から4年が経過しましたが、地域のコミュニティでは回復したとは言えない部分があると思います。特に沿岸部では集落そのものが壊滅状態のところがたくさんあり、小学校区によってはかなり人材発掘が難しいところがあると思いますが、無理のないところで事業を推進することは必要だと思いますので、その点を配慮いただいて継続をお願いします。</p> <p>【佐藤祐樹 氏】</p> <p>震災の後、地域の役割や伝承芸能、地場産品が改めて見直されており、学校、家庭そして地域が協働した子どもたちの育成やよりよい環境整備のためにも、大変頼もしくよい事業であると思いますので、継続をお願いします。</p>																																																			
予算の執行状況		(単位：円)																																																			
		予算額	決算額	決算額の財源内訳																																																	
				国(県)支出金	地方債	その他	一般財源																																														
		400,000	300,000	300,000																																																	

事業番号		13	事業名		放課後子ども教室推進事業																																														
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第 2 章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()																																												
	6 項	社会教育費		第 2 節	地域全体で子どもたちを育成する		()																																												
	1 目	社会教育総務費		(1)	地域・家庭の教育力を強化する		()																																												
目的及び事業内容		市内小学校区において、公共施設を活用し、子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動の取組を実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進するものである。																																																	
取組実績		<p>1 放課後子ども教室推進事業「和っ子クラブ」（和渚小学校区へ委託） ・登録児童数 40名 ・登録ボランティア数 35名</p> <p>2 放課後子ども教室開設に向けての取組</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動内容</th> <th>場 所</th> <th>参加ボランティア延人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①石巻市放課後子ども教室推進事業保護者説明会</td> <td>和渚小学校</td> <td>40人</td> </tr> <tr> <td>②和っ子クラブ運営会議①</td> <td>和渚コミュニティーセンター</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td>③和っ子クラブ運営会議②</td> <td>和渚コミュニティーセンター</td> <td>35人</td> </tr> <tr> <td>④和っ子クラブ運営会議③</td> <td>和渚コミュニティーセンター</td> <td>30人</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 放課後子ども教室の活動実績 年間36日</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動内容</th> <th>日数</th> <th>参加児童延べ人数</th> <th>参加ボランティア延人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①学習活動（宿題・自由学習・紙工作など）</td> <td>8日</td> <td>218人</td> <td>73人</td> </tr> <tr> <td>②体験活動（林業体験・農業体験・調理など）</td> <td>14日</td> <td>392人</td> <td>136人</td> </tr> <tr> <td>③スポーツ活動（ドッジボール、ゲートボールなど）</td> <td>4日</td> <td>102人</td> <td>32人</td> </tr> <tr> <td>④その他の学習活動（読み聞かせ・紙芝居など）</td> <td>5日</td> <td>131人</td> <td>44人</td> </tr> <tr> <td>⑤遊びの活動（将棋など）</td> <td>5日</td> <td>130人</td> <td>40人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>973人</td> <td>325人</td> </tr> </tbody> </table>							活動内容	場 所	参加ボランティア延人数	①石巻市放課後子ども教室推進事業保護者説明会	和渚小学校	40人	②和っ子クラブ運営会議①	和渚コミュニティーセンター	30人	③和っ子クラブ運営会議②	和渚コミュニティーセンター	35人	④和っ子クラブ運営会議③	和渚コミュニティーセンター	30人	活動内容	日数	参加児童延べ人数	参加ボランティア延人数	①学習活動（宿題・自由学習・紙工作など）	8日	218人	73人	②体験活動（林業体験・農業体験・調理など）	14日	392人	136人	③スポーツ活動（ドッジボール、ゲートボールなど）	4日	102人	32人	④その他の学習活動（読み聞かせ・紙芝居など）	5日	131人	44人	⑤遊びの活動（将棋など）	5日	130人	40人	計		973人	325人
活動内容	場 所	参加ボランティア延人数																																																	
①石巻市放課後子ども教室推進事業保護者説明会	和渚小学校	40人																																																	
②和っ子クラブ運営会議①	和渚コミュニティーセンター	30人																																																	
③和っ子クラブ運営会議②	和渚コミュニティーセンター	35人																																																	
④和っ子クラブ運営会議③	和渚コミュニティーセンター	30人																																																	
活動内容	日数	参加児童延べ人数	参加ボランティア延人数																																																
①学習活動（宿題・自由学習・紙工作など）	8日	218人	73人																																																
②体験活動（林業体験・農業体験・調理など）	14日	392人	136人																																																
③スポーツ活動（ドッジボール、ゲートボールなど）	4日	102人	32人																																																
④その他の学習活動（読み聞かせ・紙芝居など）	5日	131人	44人																																																
⑤遊びの活動（将棋など）	5日	130人	40人																																																
計		973人	325人																																																
成 果		地域の中で、子どもたちに様々な体験・交流・学習活動の機会を提供することにより、子どもたちの社会性・自主性・創造性等の豊かな人間性を育むことができた。また、地域の子もたちと大人の積極的な参画・交流によって地域コミュニティの充実に寄与することができた。																																																	
成果に係る評価		<p>地域の人々の参画を得て、放課後を活用した学習活動や体験活動、異世代交流などを行いながら、子どもたちが安心して過ごせる居場所を確保することができた。地域の人々に見守られながら体験活動をやり遂げることで学習意欲が向上するとともに、異年齢交流をとおして思いやりの気持ちが育つなど、子どもたちの姿に変容が見られる。</p> <p>また、地域の人々も、子どもたちの教育に協力を惜しまず、子どもたちと共に放課後子ども教室に参画することに生きがいを見出しており、地域教育力の向上にも役立っている。</p> <p>今後は、持続的な運営の仕方やボランティアの研修などによる指導力や意識の向上などを図りながら継続する必要がある。</p>																																																	
学識経験者からの意見		<p>【菅井吉秀 氏】 異世代の交流、異年齢交流、地域の教育力の向上、地域の活性化など、一つの事業で数多くのメリットが挙げられる事業ですばらしいと思いました。地域の小学校区の選定が限られている状況はありますが、今後も継続していただきたいと思います。</p> <p>【佐藤祐樹 氏】 児童と地域の人々の交流は、将来の健全な地域活性のためにも大切なことだと思いますので、今後も継続をお願いします。</p>																																																	
予算の執行状況		(単位：円)																																																	
		予算額	決算額	決算額の財源内訳																																															
				国(県)支出金	地方債	その他	一般財源																																												
		1,340,000	1,086,041	1,086,041																																															

事業番号		14	事業名		青少年文化芸術鑑賞事業			
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第 5 章	心ゆたかな誇れるまち	復興計画	()	
	6 項	社会教育費		第 3 節	地域に対する愛着や誇りをはぐくむ		()	
	1 目	社会教育総務費		(1)	多様な文化芸術活動の広がりと交流を推進する		()	
目的及び事業内容		<p>芸術鑑賞の機会に恵まれない地域の青少年に対し、優れた生の芸術を鑑賞してもらい、豊かな情操を涵養する。</p> <p>学校の総合的学習時間等を利用して、優秀な舞台芸術の鑑賞機会を提供し、感受性豊かな人間としての育成を図るために必要な事業である。</p>						
取組実績	1 巡回小劇場							
		開催日	場所	公演内容		鑑賞学校・鑑賞人数		
		9月10日	大谷地小学校	劇団芸優座 「角〜いじめっこ姫の物語」		大谷地小学校（児童202名）		
		9月24日	門脇中学校	劇団芸優座 「The Last Leaf」		門脇中学校（生徒325名）		
		12月8日	東浜小学校	劇団芸優座 「角〜いじめっこ姫の物語」		東浜小学校（児童23名）		
	2 青少年劇場小公演							
		開催日	場所	公演内容		鑑賞学校・鑑賞人数		
		10月29日	山下小学校	吉澤実・永田平八 「リコーダーとともに」		山下小学校（児童200名）		
		10月30日	北上小学校	吉澤実・永田平八 「リコーダーとともに」		北上小学校（児童111名）		
		10月30日	釜小学校	吉澤実・永田平八 「リコーダーとともに」		釜小学校（児童144名）		
		10月31日	稲井小学校	吉澤実・永田平八 「リコーダーとともに」		稲井小学校（児童226名）		
	3 文化芸術による子供の育成事業							
		開催日	場所	公演内容		鑑賞学校・鑑賞人数		
		9月16日	鹿妻小学校	淡路人形座「人形浄瑠璃」		鹿妻小学校（児童391名）		
		9月19日	大川小学校	東京フィルハーモニー交響楽団「オーケストラ」		大川小学校（児童190名）		
	9月25日	鮎川小学校	古野光昭「ジャズ」		鮎川小学校（児童 76名）			
	11月4日	門脇中学校	古典空間「邦楽」		門脇中学校（生徒320名）			
	12月2日	須江小学校	茂木寿哉「陶芸」		須江小学校（児童 49名）			
	1月28日	開北小学校	アーツカンパニー「音楽劇」		開北小学校（児童451名）			
	2月18日	大須中学校	めばえ寄席「演芸」		大須中学校（生徒 7名）			
	2月19日	牡鹿中学校	めばえ寄席「演芸」		牡鹿中学校（生徒 62名）			
	2月24日	大須中学校	劇団プレイバックーズ「即興劇」		大須中学校（生徒 7名）			
成果	児童・生徒に対し、優れた生の芸術を鑑賞する機会を提供することにより、情操を養い豊かな人間形成に寄与することができた。							
成果に係る評価	巡回小劇場、青少年劇場小公演等は、宮城県教育委員会とともに主催する事業であり、経費については一部を負担するものである。質の高い芸術を小中学生へ幅広く提供するために、開催地区などに偏りが出ないように配慮しながら、今後とも継続していく。							
学識経験者からの意見	<p>【菅井吉秀 氏】</p> <p>子どもたちが生で本物の芸術に触れられるチャンスは少ないので、素晴らしい機会を設けていただいています。子どもたちの豊かな感性を育てる意味でも、今後も継続していただきたいと思ひます。</p> <p>【佐藤祐樹 氏】</p> <p>レコードやCD、又は活字を通しての芸術鑑賞も有効とは思ひますが、やはり生の芸術には遠く及ばないと思ひます。より深い感動を得るために、生の芸術鑑賞の機会をなるべく多くしていただきたいと思ひます。</p>							
予算の執行状況	(単位：円)							
	予算額	決算額	決算額の財源内訳					
			国(県)支出金	地方債	その他	一般財源		
1,199,900	1,199,900				1,199,900			

事業番号		15	事業名		文化芸術事業																					
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第 章	復興計画	(4)	未来のために伝統・文化を守り、人・新たな産業を育てる																			
	6 項	社会教育費		第 節		(1)	未来の人を育てる																			
	13 目	東日本大震災関係費		()		(1)	学校教育・社会教育施設等の復旧・復興																			
目的及び事業内容		市民の心の豊かさの復興が真の復興となるという考えから、市民への芸術鑑賞機会の提供など、被災者を対象とした事業及び一般市民を対象とし、復興支援コンサート、市外への移動鑑賞ツアー、学校等へのアウトリーチ事業を実施する。																								
取組実績		<p>文化芸術事業に関するノウハウを有する、石巻市芸術文化振興財団に事業を委託し実施した。</p> <p>1 被災者を対象とした芸術鑑賞事業 (1) 仮設住宅の集会所及び小ホールを利用した事業 2件 5回 1,185名参加</p> <p>2 被災者を対象とした文化芸術参加型事業 (1) 仮設住宅集会所及び市内の公民館等を利用した事業 6件 11回 710名参加</p> <p>3 被災児童生徒を対象とした文化芸術事業 (1) 被災した小中学校及び幼稚園等を対象とした事業（アウトリーチ） 3件 10回 438名参加</p> <p>4 一般市民を対象とした復興をテーマとした文化芸術事業 (1) 市内の体育施設等を利用した大型事業 1件 1回 638名参加 (2) 市内の小ホール等を利用した事業 7件 7回 2,961名参加 (3) 市外への移動鑑賞ツアー 2件 2回 87名参加 (4) 小中高等学校等でのアウトリーチ事業 6件 14回 1,562名参加 合計 27件 50回 7,581名参加</p>																								
成果		<p>市民の「心の豊かさの復興」のため、文化芸術に接する機会を提供することができた。</p> <p>事業の実施回数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">成果指標</th> <th rowspan="2">達成率</th> </tr> <tr> <th>目標値</th> <th>実績等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H24</td> <td>50回</td> <td>67回</td> <td>130%</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>50回</td> <td>59回</td> <td>110%</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>50回</td> <td>50回</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>							区分	成果指標		達成率	目標値	実績等	H24	50回	67回	130%	H25	50回	59回	110%	H26	50回	50回	100%
区分	成果指標		達成率																							
	目標値	実績等																								
H24	50回	67回	130%																							
H25	50回	59回	110%																							
H26	50回	50回	100%																							
成果に係る評価		芸術文化活動の拠点であった市民会館・文化センターが被災し代替施設がない中で、相手方へ出向くアウトリーチ事業をはじめ、芸術鑑賞機会の提供のためには当該事業を継続する必要がある。																								
学識経験者からの意見		<p>【菅井吉秀 氏】 大震災から4年が経過しても、心が折れそうになる方がまだまだいらっしゃることを考えると、この事業は大変ありがたい事業だと思います。予算の続く限り継続していただきたいと思います。</p> <p>【佐藤祐樹 氏】 「心の豊かさの復興」は大変すばらしい言葉だと思います。芸術文化鑑賞の機会をなるべく増やし、被災した方々の心を今後とも癒していただきたいので、事業の継続をお願いしたいと思います。</p>																								
予算の執行状況		(単位：円)																								
		予算額	決算額	決算額の財源内訳																						
				国(県)支出金	地方債	その他	一般財源																			
		14,040,000	14,040,000				14,040,000																			

事業番号		16	事業名		家庭教育支援事業																																			
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第 章	復興計画	(4)	未来のために伝統・文化を守り、人・新たな産業を育てる																																	
	6 項	社会教育費		第 節		(1)	未来の人を育てる																																	
	1 目	社会教育総務費		()		(3)	子どものケアの実施																																	
目的及び事業内容		子育てサポーター及び子育てサポーターリーダーなどの身近な人たちによる「家庭教育支援チーム」を組織し、孤立しがちな保護者や仕事で忙しい保護者など、地域とのコミュニケーションや学習の機会等になかなか参加できない保護者や家庭に対する支援を行う。																																						
取組実績		<p>1 仮設団地集会所における親子参加型の活動（子育てサロン）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>実施期間</th> <th>実施回数</th> <th colspan="2">参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H24</td> <td>H24.4～H25.3</td> <td>20回</td> <td>延べ224組</td> <td>延べ530人</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>H25.4～H26.3</td> <td>23回</td> <td>延べ279組</td> <td>延べ604人</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>H26.4～H27.3</td> <td>22回</td> <td>延べ317組</td> <td>延べ734人</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 親の学び講座（母親対象）ノーバディーズ・パーフェクトプログラム研修他</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>実施回数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H24</td> <td>3回</td> <td>44人</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>7回</td> <td>92人</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>38回</td> <td>252人</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 東部教育事務所管内協働教育研修会 参加者数 9人（家庭教育支援チーム9人 ※うち実践発表者3名）</p> <p>4 子育てサポーターリーダー養成講座（家庭教育プログラム「親のみちしるべ」ファシリテーター養成） 受講者 4名（家庭教育支援チーム4名）</p>							年 度	実施期間	実施回数	参加人数		H24	H24.4～H25.3	20回	延べ224組	延べ530人	H25	H25.4～H26.3	23回	延べ279組	延べ604人	H26	H26.4～H27.3	22回	延べ317組	延べ734人	年 度	実施回数	参加人数	H24	3回	44人	H25	7回	92人	H26	38回	252人
年 度	実施期間	実施回数	参加人数																																					
H24	H24.4～H25.3	20回	延べ224組	延べ530人																																				
H25	H25.4～H26.3	23回	延べ279組	延べ604人																																				
H26	H26.4～H27.3	22回	延べ317組	延べ734人																																				
年 度	実施回数	参加人数																																						
H24	3回	44人																																						
H25	7回	92人																																						
H26	38回	252人																																						
成 果		<p>被災により多くの社会教育施設が使用不能であるため、仮設住宅団地の集会所を主な会場として平成23年9月から親子参加型の活動を継続してきた。</p> <p>この結果、家庭教育支援チームの活動が徐々に市民に知られるようになり、参加する親子が着実に増加してきている。また、市内のNPOや子育てサークルとの連携により内容も充実した。</p> <p>親の学び講座においては受講生全員が「プログラムをととても気に入った」と評価しており、子育ての知識やスキルを習得するとともに、子育てに対する自信をつけさせることができ、母親同士の新たなコミュニケーションの形成にも役立っている。</p> <p>また、講座受講後、家庭教育支援チームに入って活動したり親の学び講座のファシリテーターの資格を取得したりして、「支援される側」から「支援する側」として活動する母親が見られるようになった。</p>																																						
成果に係る評価		<p>平成23年9月から実施した事業であるが、家庭教育支援チームの活動が知られるようになり多くの親子が参加するようになった。また、市内のNPO及び子育てサークルとの連携により繋がりや輪が広がるとともに、内容も充実してきている。子育て支援における新しいリーダーも育ってきている。</p> <p>震災により生活環境の変化等による子育ての不安をサポートするため、当事業の成果は大きい。参加者の増加に伴い、支援者の確保が課題であったが、平成26年度より教育委員会主催のサポーター研修会を開催することにより支援者の数も増加している。</p>																																						
学識経験者からの意見		<p>【菅井吉秀 氏】 未来を担う子どもの育成として重要な支援事業と思います。他の事業と比べると予算が少ないので、必要に応じて予算確保も必要であると思いました。家庭の親にとっては助かる事業なので、今後も継続をお願いします。</p> <p>【佐藤祐樹 氏】 事業としては、地域に非常に浸透している感じがします。今後も強力に進めていただきたいと思いません。</p>																																						
予算の執行状況		(単位：円)																																						
		予算額	決算額	決算額の財源内訳																																				
				国(県)支出金	地方債	その他	一般財源																																	
		263,003	29,894				29,894																																	

事業番号		17	事業名		スポーツ振興事業																																	
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第 5 章	心ゆたかな誇れるまち	復興計画	()																															
	7 項	保健体育費		第 4 節	市民が個性を活かして輝ける機会をつくる		()																															
	1 4 目	保健体育総務費 体育館費		(2)	市民の主体的なスポーツ活動を支援する		()																															
目的及び事業内容		市民の一体感の醸成・市民の健康づくりと交流促進・生涯スポーツ社会の実現・成人のスポーツ実施率の向上・青少年の健全育成と交流促進・スポーツ少年団加入率の向上・総合型地域スポーツクラブの拠点づくりを目的とし、石巻ふれあいマラソン大会、市民スポーツフェスタ、石巻市小学生リレーマラソン大会、いしのまきキッズ交流大会、キッズバラエティスポーツ教室、体育館スポーツ教室を実施している。(以上の6事業：スポーツ振興事業)																																				
取組実績		<p>1 石巻ふれあいマラソン大会(旧石巻シーサイドマラソン大会) 平成26年度開催はできなかったが、準備委員会を設立して次年度開催に向け準備を進めている。</p> <p>2 いしのまき市民スポーツフェスタ 気軽に参加できるスポーツを通し、市民の健康づくりと交流、地域間の連携の強化を図りながら成人のスポーツ実施率の向上を目指した。なお、平成24年度より、特定非営利活動法人石巻市体育協会への委託事業として「協働」で実施している。</p> <p>3 石巻市小学生リレーマラソン大会 市民の一体感を醸成する事業の一環として、市内小学校及びスポーツ少年団対抗のリレーマラソン大会を実施するもので、スポーツを通じた青少年の健全育成、子ども達の体力・運動能力の向上を目指し、平成24年度より、特定非営利活動法人石巻市体育協会への委託事業として「協働」でいしのまきキッズ交流大会と合体して実施しており、更に市民スポーツ参加の一翼を担った。</p> <p>4 いしのまきキッズ交流大会 市内スポーツ少年団及び小・中学校の交流により、青少年の健全育成及び地域間の連携と強化を図るため、平成24年度より、特定非営利活動法人石巻市体育協会への委託事業として「協働」で石巻市小学生リレーマラソン大会と合体して実施し、市民のスポーツ参加の一翼を担った。</p> <p>5 キッズバラエティスポーツ教室 スポーツをしたいが、何をしたら良いのかわからないという子供たちに対して、多数のスポーツ種目への体験の場を提供するため、平成24年度より、特定非営利活動法人石巻市体育協会への委託事業として「協働」で実施しており、自分に合った種目を見つけ出し、スポーツ活動に取り組む機会を創出させ、子供たちの体力の向上に努めた。</p> <p>6 体育館スポーツ教室 総合体育館で一般市民を対象にバドミントン・卓球教室を特定非営利活動法人石巻市体育協会への委託事業として平成25年度より「協働」で実施。楽しみながら基本的な技術を習得し、運動する喜びを感じて心身ともに健康な体づくりを目指し、受講生相互のコミュニティが形成される。</p>																																				
成果		<ul style="list-style-type: none"> ・一大イベントであるマラソン大会は、平成27年度開催に向け準備委員会を設立して進めている。 ・小学生リレーマラソン大会といしのまきキッズ交流大会を合同開催として実施した。 ・キッズバラエティスポーツ教室は昨年度より増となる12種類のスポーツを2回ずつ行った。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>指標項目</th> <th>スポーツフェスタ</th> <th>小学リレーマラソン</th> <th>いしのまきキッズ交流</th> <th>キッズバラエティ</th> <th>体育館教室</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H24</td> <td rowspan="3">参加者数</td> <td>197人</td> <td></td> <td>294人</td> <td>1,421人</td> <td>152人</td> <td>2,064人</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>153人</td> <td></td> <td>245人</td> <td>1,088人</td> <td>841人</td> <td>2,327人</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>85人</td> <td></td> <td>340人</td> <td>1,078人</td> <td>1,109人</td> <td>2,612人</td> </tr> </tbody> </table>							年度	指標項目	スポーツフェスタ	小学リレーマラソン	いしのまきキッズ交流	キッズバラエティ	体育館教室	計	H24	参加者数	197人		294人	1,421人	152人	2,064人	H25	153人		245人	1,088人	841人	2,327人	H26	85人		340人	1,078人	1,109人	2,612人
年度	指標項目	スポーツフェスタ	小学リレーマラソン	いしのまきキッズ交流	キッズバラエティ	体育館教室	計																															
H24	参加者数	197人		294人	1,421人	152人	2,064人																															
H25		153人		245人	1,088人	841人	2,327人																															
H26		85人		340人	1,078人	1,109人	2,612人																															
成果に係る評価		<p>東日本大震災の影響により、主会場や走路等の検討でマラソン大会は開催できなかったが、新規種目の導入も視野に入れながら次年度開催に向けて準備委員会を設立して協議を進めている。また、体育施設の復旧状況に合わせ、工夫を凝らした形での5事業を実施することができ、参加総人数も増加している状況である。</p> <p>なお、企画・運営については、特定非営利活動法人石巻市体育協会と「協働」の体制を変えず、行政主導から民間主導へと移行して実施しており、「成人のスポーツ実施率の向上」、「子どもたちの体力と運動能力の向上」を達成するために必要な要素が含まれていることから、被災地(被災者)の復興状況と照らし合わせながら、多くの市民が参加しやすい環境整備及び参加意識の向上に努めた。</p>																																				
学識経験者からの意見		<p>【菅井吉秀氏】細かい事業をたくさん行っていて素晴らしいと思います。体力の向上は気力の充実につながりますし、そのことによって自信が湧いて誇りが持てるようになります。まさに人づくりの一大事業でありますので、今後も本事業が一層充実されますことを期待します。</p> <p>【佐藤祐樹氏】いろいろな考えをよくめぐらせて、大会や教室を開催されている努力に感謝します。今後とも続けていただきたい大変素晴らしい事業であると考えます。</p>																																				
予算の執行状況		予算額		決算額		決算額の財源内訳																																
						国(県)支出金	地方債	その他	一般財源																													
		2,133,000		2,133,000					2,133,000																													